

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 豊橋市立植田小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8134

愛知県豊橋市植田町字池堀田15番地

E-mail ueta-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.ueta-e.toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 189名 女子 146名 合計 335名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では4年前より「地域の教育力を生かした問題解決的な学習の展開」をテーマに研鑽を積んできた。ESDの実践を通しいきいきと学び続ける子の育成を目標とした。

具体的には、環境、人権、防災、食育などを柱に、①お年寄りと係わる活動、②地域農業に係わる教育、③地域自体に係わる学習、④地域企業や地域の団体と係わる学習を行った。

### ① お年寄りと係わる活動

1年生の生活科では、地域のお年寄りをお呼びして、「お手玉」「こままわし」「めんこ」「羽子板」など、日本の伝統的な昔遊びを教えていただいた。1年生が地域の人との優しさに触れる機会となった。また3年生の総合、道徳の時間を利用して、福祉についての学習を深め、地域にある老人福祉施設を見学し、お年寄りと関わる中で、みんな仲良く助け合って生きていくことの大切さを学んだ。また、地域の自然についての学習を深めた。

### ② 地域農業に係わる教育

5年生の総合・家庭科、米作りでは、人間の身体にも地域の自然にも害のない安心安全な米作りを心がけた。また、家庭科では、地産地消に目を向けるとともに、農協のアグリセンター見学で、農薬の厳しい制限のもとで販売されていることを知り、環境や人体への配慮の大切さを学んだ。

### ③地域自体に係わる学習

全校児童で行った校区探検と6年生のガリバーマップの制作では、はじめに全校児童が通学団ごとに保護者と共に校区に出かけ、自分の生活している周りにどのようなものがあるかを再発見することができた。そこでの調査内容をもとに、6年生が植田校区についてのまとめを行い「ガリバーマップ」(体育館に広げるおおきな縦6メートル横6メートル)の制作を行った。自分の生活している地域にどのようなものがあるかを再確認できた。

### ④地域企業や地域の団体と係わる学習

4年生は、校外学習で梅田川に行ったり、生き物の観察会に児童が参加したりして、梅田川に関する意識を高めた。「地域の梅田川を昔のようなきれいな川にもどしたい」という気持ちが高まり、地域の人々の協力のもと、「清掃活動」に参加して川と川の周りをきれいにした。

5年生では、社会「日本の工業」で地元の企業である武蔵精密の方をまねきお話を聞く機会をもった。工業部品について、常によいものを作り続ける大切さや、その部品にかける思いを生で聞くことができた。



①の写真(昔遊びの会)



②の写真(稲刈り)



③の写真(ガリバーマップ)



④の写真(武蔵精密ギヤの秘密)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学校行事としても行った)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校の教育課程には、地域と関わることのできる部分に前年度より印を入れるようにしている。それを見ることで次年度の計画を立てるときに地域を取り入れやすくなっている。

また、豊橋市も推奨している問題解決的な学習を進めていくと、子どもたちは疑問や困難に向き合います。それを解決するためのスキルの一つとして、「地域の人に聞くこと」を大切にする。植田小学校では「地域の人に会いたい」という気持ちが、自然な形で湧き上がってくるような単元づくりを進めてきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域教育ボランティアコーディネーターを代表に地域の企業商店を含めた、協力していただいている方々を「植田いなほ会」として組織化した。次に、「植田いなほ会」の貴重な方々を活用するときに、授業者が学習のねらいに迫る人材をすぐに検索できるように、「植田いなほ会」のメンバーを、データベース化した。また、地域教育マップを作り、植田校区にある教育財産の見える化を行った。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

#### 課題

新しく転入してきた職員も含め、どの学年を担当した先生も「地域とともに作るESD活動」を安心して行えるように、教務主任や教頭が校内コーディネーターとして、地域と学校をつなげる働きかけを継続していくこと。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信という部分では本校では弱いといえる。地域(校区)に対しては常に学校の様子を啓発しているが、さらに広くとなるとこれからの課題といえる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

生涯学習課の行う「地域主体の土曜日の教育活動モデル事業」として、昨年度の夏休みから先行実施された「ミナクルいきいき講座」。また、本年度より平日木曜日に行われる「トヨッキースクール」。いずれも、本校のいなほスクールの実践研究が生かされている。「地域が主体となった土曜日の教育活動」や「地域が主体となった平日の教育活動」においても、学校と地域が、しっかりとコミュニケーションをとっていくことが重要である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今後の課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

「地域の人と関わり合いながら学習を進める」経験を多く積むことで、放課後や休日にすすんで地域の人にインタビューをしたり、学習のまとめを町の人に発信したりするなど、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。  
学校と地域が目標を共有し、ともに子どもたちを育てる環境がつけられたことにより、地域行事に参加する子も増え、学校での学びが、よりよい地域づくりにつながった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「地域の教育力を生かした問題解決的な学習の展開」をテーマに研鑽を積み、ESDの実践を通しいきいきと学び続ける子の育成を目標として取り組んでいく。

①単元への位置づけ

30年度についても、地域との関わりは総合的な学習を中心に行っていく。各学年総合的な学習では地域を意識して計画を立てることが基本となっている。

②人材発掘

講師の高齢化については仕方ないことではあるが、常に意識していかなければならないことである。

③地域とのパイプ

「地域とともに作るESD活動」を安心して行えるように、教務主任や教頭が校内コーディネーターとして、地域と学校をつなげる働きかけを継続する。